

令和7年度 第1回大野城心のふるさと館運営協議会 議事録

1 日時 令和7年8月29日（金）10：00～11：30

2 会場 大野城心のふるさと館 M2階 講座学習室

3 出席者

《委員》

松川 博一（九州歴史資料館）

中村 弘峰（中村人形）

林田 スマ（大野城まどかぴあ）

宮本 明子（西日本鉄道株）

古賀 麻美（ままいる）

天野 祥子（ふるサポの会）

片山 一男（ふるサポの会）

※欠席委員 伊藤 信二（九州国立博物館）

宮崎 莉沙（名鉄観光サービス株）

《事務局》

館長 赤司 善彦

ミュージアム担当 課長 佐藤 智郁

係長 木室 友希／上田 龍児

担当 花房 伸哉／陶山 慎太郎

文化財担当 課長 石木 秀啓

係長 林 潤也／濱崎 義一

4 内容

(1) 委嘱式

井本市長より出席委員に委嘱状を交付。任期は令和9年1月31日まで。

(2) 運営協議会

①正副会長の互選

会長に林田 スマ委員、副会長に伊藤 信二委員が就任。

②諸報告

③事業報告

事務局から、資料に基づき説明。

〔委員意見〕

・もののけ姫の展示は文化財に親しみやすい展示の見本のようなもので、新境地に至ったように感じた。韓国の扶余の研究員の方とも来館したが、その方もジブリ

- を知っていた。学芸員の思いを組織がバックアップしているのが良いと感じた。20～30代が多かったとのことで、博物館が取り込みにくい層に届いていて良い。
- ・サポーターとして関わっているが、夏の特別展に介護度の高い来館者が来ていた際に非常に喜ばれていたことがあった。また、異なるグループの児童が一緒になって展示を体験している姿も見て、様々な方にふるさと館の思いが繋がっていると感じる。
 - ・夏の期間に暑さをしのげる場として、ふるさと館も非常に良いと感じるが、カフェスペースが狭いため、休憩をしに外に出られると再度戻って来る可能性が低いと思う。
- もっと長く無料で滞在できる方法があると、もっと広まっていくと思う。
- ・登録博物館となり、市に博物館があるということは誇らしいこと。過去に運営協議会で話した内容も議題となっており、検討が前に進んでいる実感がある。チラシも茶色いものでなく、興味をそそられるものになるよう努力しているのが見受けられる。
 - ・博物館になじみのない方でも来館しやすい施設だと感じる。様々な人のつながりの場になればいいと感じる。
 - ・学芸員の方が特別展で声をかけてくれると良いと思う。ふるさと館の展示内容のバランスの良さを感じる。館を知るきっかけを作るための工夫がされていて良い。

④館の運営（集客・PR）について

事務局から、資料に基づき説明。

〔委員意見〕

- ・九州歴史資料館では、PRとして、ケーブルテレビと連携し番組を放送している。特別展ごとに、学芸員が解説する番組などはいかがか。
- ・現時点でもかなり力を入れてあると感じる。福岡市にとっても興味深い化石の販売店が新しくできた。小さな小売店など、ニッチなところとの連携も面白いと思う。
- ・InstagramなどのSNSでの発信に力を入れると良いと思う。フォローで何かもらえるなどの取り組みも。動画の方が目を引きやすいので、スタッフが特別展で体験している様子をアップするなどされてはどうか。
- ・チラシを配布しても、持ち帰って捨てられてしまうと思う。体験の動画でPRは良いと思う。西日本鉄道として、西鉄福岡駅のビジョンへの広告掲出などの形でご協力できるかもしれない。
- ・ビジョンへの広告を出して、それを録画しSNSに掲載するのも良いと思う。
- ・特別展で学芸員の熱意を感じた。学芸員さんにもっと熱意をアピールしてもらっていいと思う。

⑤その他委員からの意見

- ・妊娠期や乳児向けのイベントがあるといいと思う。給食体験のイベントなども。
- ・情報が伝わらないことは残念。どう知らせていくかが必要。
- ・登録博物館の記念グッズなど、目玉となるものがあるといいと思う。協力も可能。

・来館者の層を厚くしていくことが重要。学芸員のインプットができる展示も必要。

[事務局]

・様々なご意見に感謝する。10年の節目に向け、様々な方に来館いただけるようにユニバーサルミュージアムやSNSの運用、動画の件など検討したい。

次回開催について

[事務局]

次回の会議は2月開催予定。